

|                    |  |  |        |     |     |      |    |  |
|--------------------|--|--|--------|-----|-----|------|----|--|
| 科目名<br>Course Name | 子ども家庭支援の心理学<br>Family Support Psychology   | ナンバリング<br>No.  | K4-002 |     |     |      |    |  |
| 年次                 | 2年   | 期別   | 後期     | 単位数 | 2   | 授業形態 | 講義 |  |
| 担当者氏名              | 榊 緑  |  |        |     |     |      |    |  |
| 連絡先(質問等)           | C-Learning で対応   |  |        |     |     |      |    |  |
| 必修/選択              | 選択(保育士養成課程必修)  |  |        |     |     |      |    |  |
| 関連 DP              | DP4, DP5   |  |        |     |     |      |    |  |
| 授業の概要と到達目標         | <p>本教科では、様々な世代の発達のあるようを学習することで、適切な支援を行うための基礎的情報を習得する。</p> <p>従って、到達目標としては、</p> <p>①生涯発達に関する心理学の基礎知識を習得し、各時期の移行、発達課題について説明することができるようになる。</p> <p>②様々な発達段階に在るメンバーによって構成される家族・家庭の意義や機能を理解すると共に、親子関係や家族関係等について発達の的に理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得することができるようになる。</p> <p>③子育て家庭を巡る現代の社会状況と課題を理解し、必要な対応を考察することができるようになる。</p> <p>④子どもの精神保健とその課題について察することができるようになる。</p> |  |        |     |     |      |    |  |
| 授業の方法              | <p>視覚教材、プリント等も活用しながら講義形式にて実施する。アクティヴ・ラーニングを行う側・仕掛ける側両方の知見を得るためのディスカッションを含む。</p> <p>好ましいレポートや論述試験解答の書き方および評価の基準・観点は、初回オリエンテーション時に具体的に指導する。</p>  |  |        |     |     |      |    |  |
| 学習成果               | L01  |  |        |     |     |      |    |  |
|                    | L02  | 生涯発達の視点を持し、対象の状態に応じた支援についての心構えを持つことができる。   |        |     |     |      |    |  |
|                    | L03  | ①様々な背景を持つ対象の発達に関する知識を現実場面で活用できるよう、学んだことと身近な事象とを結び付けることができる。<br>②保育の専門家としての知見に、心理学的知識を根拠として挿入できる。 |        |     |     |      |    |  |
|                    | L04  |  |        |     |     |      |    |  |
| 課題に対するフィードバック      | レポート課題は添削の上返却される。課題としてのフィードバックの機会はそれくらいだが、日頃より積極的な質問を歓迎する。   |  |        |     |     |      |    |  |
| 教科書/参考図書           | 教科書:「子ども家庭支援の心理学」本郷一夫[編](建帛社)。参考書・資料は初回授業はじめ各回授業で随時紹介する。   |  |        |     |     |      |    |  |
| 履修上の留意点やルール等       | 講義はもとより、ディスカッションや教育実験に対して主体的且つ真剣に取り組むことを期待する。私語・居眠り・授業に無関係の行動・不参加は「授業参加態度」において減点の対象とする。教育を志す者として、真剣に受講すること。事前・事後学習時間の目安は各回 180 分相当とする。   |  |        |     |     |      |    |  |
| 担当教員の実務経験          |  |  |        |     |     |      |    |  |
| 成績評価の方法と基準         |  |  |        |     |     |      |    |  |
| 評価の領域              | 評価基準   | 学習成果の割合  |        |     |     |      |    |  |
|                    |  | L01  | L02    | L03 | L04 |      |    |  |
| 授業参加態度             | 他者の話に真剣に耳を傾け、また、積極的にディスカッション・グループワークに参加し、講義や発表への疑問については臆さず質問すること。  |  | 20     |     |     |      |    |  |
| レポート/作品            | いずれかの発達段階における各自興味を持ったトピックを選んで論述する。記述に客観性とバランスの良さがあること。   |  |        | 30  |     |      |    |  |
| 発表                 |  |  |        |     |     |      |    |  |
| 小テスト               |  |  |        |     |     |      |    |  |
| 試験                 | 期末考査を実施する。多問型と論述型を組み合わせた試験なので、講義をよく聴き、まんべんなく勉強しておくこと。  |  | 30     | 20  |     |      |    |  |
| その他                |  |  |        |     |     |      |    |  |
| 合計                 |  |  | 50     | 50  |     |      |    |  |

| 回数 | 授業計画    |  |
|----|---------|--|
| 1  | 授業内容    | オリエンテーション:授業の方法と計画の説明 発達と子どもを取り巻く環境  |
|    | 事前・事後学習 | 遡って1ヶ月間の新聞記事の中から、小学生に関する社会問題の記事を探し、数点まとめて要約する。                               |
| 2  | 授業内容    | 生涯に亘る発達の道筋:幼児期から児童期へ 小1プロブレムと就学支援  |
|    | 事前・事後学習 | 保育所・幼稚園・認定こども園で可能な就学支援をノートにまとめる。   |
| 3  | 授業内容    | 生涯に亘る発達の道筋:児童期の発達 社会性の拡大 子どもの自己主張と自己統制への関わり                                  |
|    | 事前・事後学習 | 自分の児童期のソシオグラムを作成し、さらに今だからこそ推測できる要素を加えて、ブロンフェンブレンナーの生態学的システムを作図する。            |
| 4  | 授業内容    | 生涯に亘る発達の道筋:思春期の発達 童話に見る思春期心性 思春期の危機 青年期の発達 自立性の発達                            |
|    | 事前・事後学習 | 自分の思春期の対人関係を振り返り、葛藤の所在を分析する。   |
| 5  | 授業内容    | 生涯に亘る発達の道筋:成人期の発達(1) 子育て世代 子育ては誰の仕事?   |
|    | 事前・事後学習 | 成人期の発達について今回授業内のトピックスで特に気になったものを1つ取り上げ、深掘り調査を行う。                             |
| 6  | 授業内容    | 生涯に亘る発達の道筋:成人期の発達(2) 子育ての生理的メカニズム 男性の保育                                      |
|    | 事前・事後学習 | 成人期の発達について今回授業内のトピックスで特に気になったものを1つ取り上げ、深掘り調査を行う。                             |
| 7  | 授業内容    | 生涯に亘る発達の道筋:成人期の発達(3) 世界の子育て  |
|    | 事前・事後学習 | 成人期の発達について今回授業内のトピックスで特に気になったものを1つ取り上げ、深掘り調査を行う。                             |
| 8  | 授業内容    | 生涯に亘る発達の道筋:成人期の発達(4) 子育ての経験と親としての成長 ワークライフバランス                               |
|    | 事前・事後学習 | 深掘り調査の中間まとめを行い、総合レポートの骨子を組み立てる。  |
| 9  | 授業内容    | 生涯に亘る発達の道筋:成人期の発達(5) 壮年期・老年期の発達 次世代の育成 人生の重なりと循環(ライフサイクル) 【レポート提出】           |
|    | 事前・事後学習 | 人生100年時代における自分のライフコースを複数パターン考察する。  |
| 10 | 授業内容    | 家族と家庭:子育て家庭をめぐる現代の社会的状況 多様な家庭とその理解   |
|    | 事前・事後学習 | 授業内容に関連する新聞記事等を参照し、現代家庭の社会的現状をノートにまとめる。                                      |
| 11 | 授業内容    | 家族と家庭:家庭の意義と機能 親子関係・家族関係の理解  |
|    | 事前・事後学習 | 授業内容に関連する新聞記事等を参照し、現代家庭の社会的現状をノートにまとめる。                                      |
| 12 | 授業内容    | 家族と家庭:特別な配慮を要する家庭  |
|    | 事前・事後学習 | 授業内容に関連する新聞記事等を参照し、現代家庭の社会的現状をノートにまとめる。                                      |
| 13 | 授業内容    | 家族と家庭:家族カウンセリング 日常場面での保護者支援  |
|    | 事前・事後学習 | 着任5年程度、5～10年間程度を分類の目安とし、自分にできる保護者支援のあり方を想定・比較する。                             |
| 14 | 授業内容    | 災害と子ども:災害と精神的健康 心的外傷後ストレス障害 被災児童のダメージ 保育者にできる災害支援 被災保育者のメンタルヘルス 災害に備える保育環境とは |
|    | 事前・事後学習 | 災害に備える保育環境について深掘り調査を行い、まとめる。   |
| 15 | 授業内容    | 子どもの精神保健とその課題:子どもの生活・生育環境とその影響 子どもの心と健康                                      |
|    | 事前・事後学習 | 子どもとその家庭を支援するための対策をまとめ、期末考査に備える。   |